

新型コロナワクチンの接種を受ける前にお読みください

予防接種の効果や副反応についてよく理解しましょう。気になることやわからないことがあれば、医師に質問し、十分に理解してから接種を受けてください。予診票は、医師が予防接種の可否を決める大切な情報であるため、正しく記入してください。

新型コロナウイルス感染症はどんな病気？

新型コロナウイルス感染症は、咽頭痛や鼻水、倦怠感、発熱、筋肉痛等の症状があらわれることが多く、インフルエンザと似た症状がみられます。軽症のまま治癒する人も多い一方、特に高齢の方は重症化すると、呼吸困難等の肺炎の症状が悪化し、死に至る場合もあります。

ワクチンの効果

ワクチンを接種してから免疫がつくまで約1～2週間かかります。人や動物における国内外で実施された研究等により、新型コロナウイルス感染症にかかった場合の入院や死亡等の重症化等を予防する重症化予防効果が認められています。

予防接種を受けることができない方

- ① 接種当日、明らかに発熱のある方（一般的に、37.5℃以上の場合）
- ② 重篤な急性疾患にかかっている方
- ③ 予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシー（※）を起こしたことが明らかな方
- ④ その他、医師が予防接種を行うことが不相当と判断した方

（※）アナフィラキシーは、じんま疹等の皮膚症状、腹痛や嘔吐等の消化器症状、息苦しさ等の呼吸器症状が急に起こります。血圧低下や意識レベルの低下（呼びかけに反応しない）を伴う場合を、アナフィラキシーショックと呼びます。

接種を受けるときに注意を要する方

- ① 心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害等の基礎疾患のある方
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱した方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状がでたことがある方
- ③ 過去にけいれんの既往のある方
- ④ 過去に免疫不全の診断がされている方及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる方
- ⑤ 接種しようとする接種液の成分によってアレルギーを起こすおそれのある方
- ⑥ 抗凝固療法を受けている方、血小板減少症または凝固障害のある方（※）

（※）新型コロナワクチンは筋肉内に注射することから、⑥の方は接種後の出血に注意が必要とされています。

他の予防接種を受けている場合の接種間隔

他のワクチンとの接種間隔に制限はありません。また、新型コロナワクチンと他のワクチンとの同時接種は、医師が特に必要と認めた場合に可能です。

接種後の注意事項

- ① 接種後24時間は副反応の出現に注意してください。（特に接種後30分以内）
- ② 接種後は、接種部位を清潔に保ちましょう。接種当日は過激な運動や過度の飲酒は控えましょう。
- ③ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
- ④ 接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすらないようにしましょう。

予防接種の副反応

- 主な副反応として、注射部位の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱等がみられることがあります。こうした症状の大部分は、接種後数日以内に回復します。また、稀な頻度でアナフィラキシー（急性のアレルギー症状）が発生したことが報告されています。
- mRNAワクチンでは、頻度としてはごく稀ですが、心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告されており、思春期や若年成人に、女性よりも男性に、より多くの事例が報告されています。日本におけるこれまでの報告状況を踏まえ、心筋炎や心膜炎の典型的な症状としては、ワクチン接種後4日程度の間、胸の痛みや息切れが出ることが想定されます。こうした症状が現れた場合は速やかに医療機関を受診してください。

予防接種健康被害救済制度

接種後に健康被害が生じ、入院治療が必要となったり、その後に障害が残ったりした場合には健康被害救済制度の対象となる場合があります。副反応や予防接種健康被害救済制度について不明な点がありましたら、神戸市保健課（電話：078-322-6788／FAX：078-322-6732）にご相談ください。

詳しくは、市ホームページをご参照ください。



最新の情報は、厚生労働省ホームページをご確認ください。

① 詳しくは、市ホームページでご確認ください。

神戸市 新型コロナワクチン 予防接種 | Q

高齢者インフルエンザ・新型コロナワクチン コールセンター

平日 8:45～17:30（土日祝除く） 078-771-7203 **FAX** 078-291-5953